

60001

仏教 I (瞑想)

S 桃尾幸順 藤谷厚生

【概要】 要】徹底して慈しみと慎みと忍耐、努力、学習、思索の生活（六波羅蜜という）を送って、釈尊はご自身の人格を完成するとともに悟りを開かれた。本学の創始者と言える聖徳太子も、同じくこの六波羅蜜の行を積み、併せて、四天王寺敬田院（今の四天王寺学園）を造営された。敬田院は、人々が自ら宗教的情操を涵養し、人格の陶冶をはかり、広範にして深い知識と高い技術を修得し、理想とする未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛え学習する場所であった。また貧者や身寄りの無い人々のためには同寺に悲田院、病人の治療のためには療病院、薬草を植えて採取し、それを調合して与える所として施薬院を設けられた。本学は、四天王寺の敬田院事業であるから、上記の敬田院の目的が達成されるよう、そのカリキュラムが組まれる。献灯に始まって読経、止観（心を静めて思索すること。瞑想ともいう）、聞法（学習）、聖歌斉唱が行なわれる。

【到達目標】 全霊をあげての六波羅蜜の実修であり、人格の完成を目指すとともに、諸教科の学修の心構えと態度を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(1) | 行なう。(8)                          |
| 2 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(2) | 9 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(9)   |
| 3 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(3) | 10 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(10) |
| 4 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(4) | 11 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(11) |
| 5 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(5) | 12 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(12) |
| 6 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(6) | 13 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(13) |
| 7 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(7) | 14 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(14) |
| 8 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(8) | 15 学期まとめ                         |

【テキスト】 『聖典・聖歌』（四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部）

【参考文献】 適宜プリント配布

【授業形態】 実践演習

【成績評価の方法】 平常点 100 %

60002

仏教Ⅱ（瞑想）

W 桃尾幸順 藤谷厚生

【概 要】徹底して慈しみと慎みと忍耐、努力、学習、思索の生活（六波羅蜜という）を送って、釈尊はご自身の人格を完成するとともに悟りを開かれた。本学の創始者と言える聖徳太子も、同じくこの六波羅蜜の行を積み重ね、併せて、四天王寺敬田院（今の四天王寺学園）を造営された。敬田院は、人々が自ら宗教的情操を涵養し、人格の陶冶をはかり、広範にして深い知識と高い技術を修得し、理想とする未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛え学習する場所であった。また貧者や身寄りの無い人々のためには同寺に悲田院、病人の治療のためには療病院、薬草を植えて採取し、それを調合して与える所として施薬院を設けられた。本学は、四天王寺の敬田院事業であるから、上記の敬田院の目的が達成されるよう、そのカリキュラムが組まれる。「仏教Ⅰ」に引き続き、献灯に始まって読経、止観（心を静めて思索すること。瞑想ともいう）、聞法（学習）、聖歌斉唱が行なわれる。

【到達目標】全霊をあげての六波羅蜜の実修であり、人格の完成を目指すとともに、諸教科の学修の心構えと態度を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（1） | 行なう。（8）                          |
| 2 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（2） | 9 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（9）   |
| 3 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（3） | 10 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（10） |
| 4 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（4） | 11 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（11） |
| 5 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（5） | 12 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（12） |
| 6 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（6） | 13 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（13） |
| 7 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（7） | 14 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（14） |
| 8 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（8） | 15 学期まとめ                         |

【テキスト】『聖典・聖歌』（四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部）

【参考文献】適宜プリント配布

【授業形態】実践演習

【成績評価の方法】平常点 100 %

60003

仏教Ⅲ（写経）

S 桃尾幸順 藤谷厚生 兼子恵順 木村俊彦 西岡祖秀

〔概要〕・〔授業目的〕 徹底して慈しみと慎みと忍耐、努力、学習、思索の生活（六波羅蜜という）を送って、釈尊はご自身の人格を完成するとともに悟りを開かれた。本学の創始者と言える聖徳太子も、同じくこの六波羅蜜の行を積み、併せて、四天王寺敬田院（今の四天王寺学園）を造営された。敬田院は、人々が自ら宗教的情操を涵養し、人格の陶冶をはかり、広範にして深い知識と高い技術を修得し、理想とする未来像を描き、その実現のための強い意思を鍛える場所であった。また貧者や身寄りの無い人々のためには同寺に悲田院、病人の治療のためには療病院、薬草を植えて採取し、それを調合して与えるところとして施薬院を設けられた。本学は、四天王寺の敬田院事業であるから、上記の敬田院の目的が達成されるよう、そのカリキュラムが組まれる。この科目では献灯、読経、止観、写経、聖歌斉唱を執り行なうことによって、全霊を挙げて六波羅蜜を実習し、人格の完成を目指すとともに、諸教科の学修の心構えと態度を身につけるのである。

〔授業計画〕

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(1) | 9 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(9)   |
| 2 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(2) | 10 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(10) |
| 3 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(3) | 11 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(11) |
| 4 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(4) | 12 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(12) |
| 5 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(5) | 13 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(13) |
| 6 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(6) | 14 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(14) |
| 7 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(7) | 15 学期まとめ                         |
| 8 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(8) |                                  |

〔テキスト〕 『聖典・聖歌』『写経必携』（四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部）

〔参考文献〕 適宜プリント配布

〔授業形態〕 実践演習

〔成績評価の方法〕 写経提出および平常点で 100 %

60004

仏教Ⅳ（写経）

W 桃尾幸順 藤谷厚生 兼子恵順 木村俊彦 西岡祖秀

〔概要〕・〔授業目的〕 徹底して慈しみと慎みと忍耐、努力、学習、思索の生活（六波羅蜜という）を送って、釈尊はご自身の人格を完成するとともに悟りを開かれた。本学の創始者と言える聖徳太子も、同じくこの六波羅蜜の行を積まれ、併せて、四天王寺敬田院（今の四天王寺学園）を造営された。敬田院は、人々が自ら宗教的情操を涵養し、人格の陶冶をはかり、広範にして深い知識と高い技術を修得し、理想とする未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛え学習する場所であった。また貧者や身寄りの無い人々のためには同寺に悲田院、病人の治療のためには療病院、薬草を植えて採取し、それを調合して与える所として施薬院を設けられた。本学は、四天王寺の敬田院事業であるから、上記の敬田院の目的が達成されるよう、そのカリキュラムが組まれる。「仏教Ⅲ」に引き続き、献灯、読経、止観、写経、聖歌斉唱を執り行なうことによって、全霊を挙げて六波羅蜜を実修し、人格の完成を目指すとともに、諸教科の学修の心構えと態度を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(1) | 9 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(9)   |
| 2 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(2) | 10 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(10) |
| 3 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(3) | 11 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(11) |
| 4 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(4) | 12 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(12) |
| 5 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(5) | 13 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(13) |
| 6 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(6) | 14 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(14) |
| 7 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(7) | 15 学期まとめ                         |
| 8 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。<br>(8) |                                  |

〔テキスト〕『聖典・聖歌』『写経必携』（四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部）

〔参考文献〕適宜プリント配布

〔授業形態〕実践演習

〔成績評価の方法〕写経提出および平常点で 100 %

60005

聖徳太子概説

S 藤谷厚生

〔授業題目〕聖徳太子の業績とその思想

〔概要〕 聖徳太子の事績を概観するとともに、十七条憲法・遺誡・三経義疏を通じて、太子における仏教受容とその歴史的意義について考える。

〔到達目標〕 聖徳太子がなされた歴史的業績、さらに太子が説かれた大乘仏教思想の特性の基礎理解を目標とする。

〔授業計画〕

- |             |             |               |
|-------------|-------------|---------------|
| 1 太子と日本国の黎明 | 6 仏教の思想     | 11 太子と日本古代文化  |
| 2 太子の時代 1   | 7 三経と大乘仏教思想 | 12 太子と日本仏教    |
| 3 太子の時代 2   | 8 三経義疏 1    | 13 太子信仰       |
| 4 太子の政治論    | 9 三経義疏 2    | 14 太子精神の今日的意義 |
| 5 憲法十七条     | 10 三経義疏 3   | 15 定期試験とまとめ   |

〔テキスト〕

〔参考文献〕瀧藤尊教著『以和為貴 聖徳太子の信仰と思想』（善本社）ほか

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、平常点等 20 %

60005

聖徳太子概説

S / W 桃尾幸順

〔概要〕 聖徳太子は、仏教の本質的把握による人間・社会への鋭い洞察をもって「和」を提唱し、日本の歴史の中に真実をもたらそうとする普遍的・利他的な道を切り開かれた。本講義は、太子における仏教受容とその歴史的意義を明らかにする。そのため、『日本書紀』等の関係史料に伝えられる太子の事績を概観するとともに、太子の遺語や「十七条憲法」『三経義疏』等に伝えられる太子の仏教精神を理解することを内容とする。講義を中心とし、併せて関係史(資)料の講読を行う。

〔到達目標〕 聖徳太子の思想や業績を理解し、その日本の歴史上の意義と日本文化や日本人の価値観・考え方への影響の大きさを認識する。

〔授業計画〕

- |              |                  |                  |
|--------------|------------------|------------------|
| 1 聖徳太子の時代    | 6 聖徳太子の社会事業      | 11 『維摩経義疏』の思想(2) |
| 2 聖徳太子の政治    | 7 聖徳太子と仏教        | 12 『法華経義疏』の思想    |
| 3 聖徳太子の外交    | 8 『勝鬘経義疏』の思想(1)  | 13 日本仏教における聖徳太子  |
| 4 「十七条憲法」の内容 | 9 『勝鬘経義疏』の思想(2)  | 14 聖徳太子信仰        |
| 5 「十七条憲法」の理念 | 10 『維摩経義疏』の思想(1) | 15 定期試験          |

〔テキスト〕 『聖典・聖歌』(四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部)

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、毎講義時のレポート 30%

60009

人権・同和問題論

S / W 齋藤直子

〔概要〕・〔到達目標〕 本講義は、さまざまな人権問題に関する知識を身につけ、それを通じて受講者のみなさんが人権を自らの問題として認識し、考えるようになることを到達目標としています。講義ではまず、人権という概念に関する基本的な知識を学び、次にさまざまな人権問題について学習します。

〔授業計画〕

- |                             |                       |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 ガイダンス                     | 8 ストーカー               |
| 2 人権とは何か その1 世界人権宣言         | 9 若者と労働 その1 フリーター・ニート |
| 3 人権とは何か その2 子どもの権利条約       | 10 若者と労働 その2 ワーキングプア  |
| 4 人権とは何か その3 自尊感情と人権        | 11 若者と労働 その3 外国人労働者   |
| 5 キャンパス・セクシュアルハラスメント<br>その1 | 12 同和問題 その1 歴史        |
| 6 キャンパス・セクシュアルハラスメント<br>その2 | 13 同和問題 その2 現代における問題  |
| 7 デートDV                     | 14 同和問題 その3 結婚差別      |
|                             | 15 まとめと定期試験           |

〔テキスト〕 特になし

〔参考文献〕 授業中に適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

60009

人権・同和問題論

S / W 堤圭史郎

〔授業題目〕 日常生活から人権を考える

〔概要〕 「人権が守られる」とはいかなることか。また、そもそも「人権」とはいかなる内包をもつものなのか。講義では具体的なテーマを通して、この何気ない問いから日常生活について考えたい。

〔到達目標〕 具体的なテーマを通して、自らそして他者の人権が大切にされるとはいかなることかについて捉え直し、理解を深める。

〔授業計画〕

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| 1 オリエンテーション  | 9 ホームレスの人々②         |
| 2 「人権」とはなにか① | 10 ホームレスの人々③        |
| 3 「人権」とはなにか② | 11 同和問題について①        |
| 4 「人権」の歴史    | 12 同和問題について②        |
| 5 フリーターの人々①  | 13 同和問題について③        |
| 6 フリーターの人々②  | 14 「他者とともに生きる」ということ |
| 7 フリーターの人々③  | 15 定期試験およびまとめ       |
| 8 ホームレスの人々①  |                     |

〔テキスト〕 特に指定しない。

〔参考文献〕 阿久澤麻理子、金子匡良『人権ってなに？ Q&A』(解放出版社)、他講義中に適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、小レポート等平常の課題 40%